

17世紀叙事詩と聖女マグダ
ラのマリア信仰 「マグダ
ラのマリアまたは恵みの勝
利」 Marie Madeleine ou le

小泉友美 KOIZUMI T



目次

マグダラのマリアまたは恵みの勝利 Marie Madeleine ou le triomphe de la grâce	1
---	---

マグダラのマリアまたは恵みの勝利 Marie Madeleine ou le triomphe de la grâce

ジャン デマレ ド サン = ソルラン Jean Desmarets de Saint- Sorlin (1595-1676) はフランス 17 世紀の劇作家で、宰相リシュリユー (1582-1642 カトリック教会の聖職者であり、フランス王国の政治家でルイ 13 世の宰相) をパトロンとして持ち、リシュリユーの命を受けて多くの戯曲を作った。聖女マグダラのマリアは、17 世紀フランスにおいての民間信仰においてのお気に入りの人物で、「マグダラのマリアまたは恵みの勝利 Marie Madeleine ou le triomphe de la grâce」(1669) において、罪深き女、悪魔に取り憑かれた女性、南フランスのマルセイユの民間信仰のマグダラのマリアは、改悛した隠遁者となった輝くばかりの美女と、様々なイメージで表現されている。この作品「マグダラのマリアまたは恵みの勝利」は、3700 行にわたる長編叙事詩 (poésie lyrique) であり、罪と誘惑のテーマからなる 4 編の詩と、神聖さとキリスト教の美徳のテーマの 6 編の詩で構成されている。古代ギリシア神話の寓話とキリスト教スピリチュアリティがごちゃ混ぜに組み合わせさせた、ユニークな百科事典的な作品となっている。17 世紀バロック文学の力強さ、壮麗さが、絶望 désespoir, 乾燥 sécheresse, 情熱 passion, 夜 nuit, 空虚 vide 等の語彙表現を通して、詩的絵画世界が展開されてゆく。この長編叙事詩の一部を、短歌形式風に訳して紹介したい。

マグダラのマリアまたは恵みの勝利

Marie Madeleine ou le triomphe de la grâce

快樂の果て

なんと嘆きて

疲れはてるまま

恐るべき

その美しさ

詩よありて

長き時

虚栄に

へつらいて

三美神

声を耳にし
答えては
自由気ままに
覚まされし

善意あり
限りなく
押しよせし波
溺死避け

罪の恥
美德の名誉
ともに
海岸で謳おう

聖霊よ
父なるカミと
その息子
聖なる絆
愛と光
囚われて
松明燃やせ
罪の危険と
死の闇に
綴られし歴史
反逆のちから

光ありて
空の輝き
内なる炎
燃え盛りて
さらに激しく
日々の秘密に
熱情ありき
聖なる愛よ
快楽と殉教
わが歌に綴る
語り草
創造の
息吹よ語れ

この世界を
燃えつくせよ

昔より
遥かなる
熱情は
俗世を離れ
イエス キリスト
ロゴスありける
この海の岸

一方は
探し求めて
他方は
欲望 得て
美德も勝利も
もたらさない
誰もかれも
死にゆくものよ
死から逃れられない

恐るべき
怪物を産みし日
その醜さを
見せつけよう
その誕生の
秘密を探りて
その激烈さを
見せつけて
その異なる名と
恐るべき
出自を
その悪意を
その進歩を
その悪名に
泥を塗ろうか
恩恵という
甘い誘惑
野心なる
その力

死すべき敵よ

傲慢さは
至高なる善意を
裏切るままに
予測不能の
愚かなる
虚栄を望む
フィアンセよ
その燃えるような
渴望と
こころのなかの
怒りと羨望
そして嫉妬

すべての罪は
情熱を満たし
傲慢さは
溢れかえる
食欲は放蕩
時に罪は
帝国を支配し
怖がらせて
大食漢は
苦行を断たせ
虚栄なる愛
その怠けこころ

マグダレナ
虚栄によって
負かされて
その罪は
俗世の愛に
結びついて
さらなる
栄光に
輝き
讃えられるまま
マグダレナ
棺に横たわりし

その虚栄は
消えさってゆく

天上は
生まれついでにの美は
宰し務めて
美の精神は
ますます
可憐となり
白百合の証
その純白なる肌
口びる
鮮やかな緋色に
染め上がる
その麗しき
瞳に燃ゆる
火花

マグダレナ
その瞳は
虚ろに腫らせて
傲慢とあまたの美
悦楽と苦痛に
顕れしころよ
愛による悲嘆
ころはとり急ぎ
欲を隠すままに

マグダレナ
内より飛びし
7つの悪霊
その失望
怒り
憎しみ
そして愛
おぞましく
刑に合わせて
そのころは
ざわめくままに

討論ありて
極上の恋人は
こころの中で
憤慨する
軽蔑の念は
こころに
深き傷を負わせて
熱情を
おおい隠す炎に
抱かれるまま

その愛は
困惑させて
その赤色に
軽蔑の念を
広がらせるまま

この苦しみを
抑えられるのか？
キリストは
嘆き
泣き
息をする
癒すことを
諦めて
苦しみにある

マグダレナ
キリストに逢いて
至上なる
勇気を抱く
王子
聖職者
博士たち
王を護るための
保護者たち
キリストの死をとおして
その功績を打ち破ろう
キリストの死によって
致命的な栄光は終えし

努力を惜しみ
キリストの死のなかで
勝利を得よう
いのちをありて
死をも得る

キリストの
いのちが果てる
そのいのち
復活ありて
死によみがえり
すべての試練
打ち勝とう

怒りあり
満たされるまま
キリストの
苦しみと悦楽
恥辱と侮辱
栄光なる血

傷よりいでし者よ
誰でもすべての人に
天の怒りを
鎮めたまえ

すべての富
悦楽と名誉
捨て去りて
もしもこの地を
嫌がれば
キリストのいのち
わが暗し道に
いのり

すべての富
快楽 名誉を捨てさって
もしも この顕世を
嫌うのであれば
キリストに

おいてのいのち
わたしたちの
暗き人生の
考え

地獄は
極度なる怒りを持ちて
イエス キリスト
死を瞑想し
悪魔と人は
一致する
愛する者たちの
旅立ち

兄おとうと
姉いもうと
ベタニア荘に
とどまりて
幸せなる
自由よ
聖貧にて
イエス キリスト
救い出し
その力強さと
謙虚さをもちて
隠れること
聖母の
ベタニア荘
隠居にて
場所と時

言葉あと
キリスト
マリアとマグダレナの
元を去りて
身動ぎせずに
聖なる驚きの
平安の内
留まる
キリストの

こころに
残酷な悲しみ
感じるままに
優しさ
おなじ町を
訪れる
こころ動かされるまま
父よ
あなたを慕い
あなたの息子に
栄光あれ
天から
降りそそぐ声
名誉を与えて
さらなる名誉あり

カミとその息子は
ここにおまし
恐るべき殉教者よ
誰に助けを
求めようか
残酷な日々を
堂々と語りし
とてつもなく
とてつもなく
大きく
最も神聖なる
場所ありて
最も記憶に
残りて
愛する父よ
この子羊は
優しく
怒りによって
殺されし
犠牲者たちよ
罪かえりみず
キリストの
死の虚ろ
埋めるままに

君よ
聖なる霊よ
おいなる
神殿ありて
キリストの
稀なる
カミの
神企画に
犠牲求めし
民を救えよ

悪に囚われし
人にも
善良なる人にも
キリストは
その御父なる
カミへと
愛のすべて
この非道なる
日ありて

あまたの
傲慢さ
嫉妬心と
狂犬病
大嵐ありて
天地獄
かき乱すまの動き

完全なる
愛人よ
燃え盛る炎に
打ちのめされる
苦しむまの
魂には
厳しさがありて
聖なる愛を
分かち合うま

愛なくして

誰にも言えず
誰も信じず
あなたのところに
秘密を語り
あなたの魂は死なないようで
ひたすらに
耐え抜くのみ
悩みあり
絶望ありて
キリストの
栄光は
憎しみと敵
思い知らせよう

12 人の友
食卓囲みて
両掌で割りし
パンの恵み
受けとりなさい
食べなさい
聖なる身体よ
あなたのために
捧げられて
死のうちに
想い出して

マグダレナ
あなたのところは
苦しみに
耐え忍び
あなたのからだは
十字架に伏し
あなたの愛は
このころに
深く刻まれし
凄まじく
苦しみて
マグダレナよ
キリストを顕たいのか
あなたの愛を

称えよう

この悲惨な痛みは
激しい苦しみのうちに
こころ動かして
おお キリストよ
愛によって死す
死に近づくことなかれ
愛のうちに死す
マグダレナも死にゆく
愛して
苦しみぬくのみ

マグダレナ
信仰と愛は
目覚めゆくまま
暗夜へとくだり
愛はつよく
キリストなくして
死にもせずに生きもしない

恩恵は
こころを武装させ
魂をつよく
暗闇の
牢の鍵なくして
扉開く
死を通して
苦しみありて
Koine を深めし
キリストが
侮蔑され
愛が強まり
あたたまる
キリストに
名誉と恥を
たくそう
キリストの
愛 勝利して
残酷に

信仰は
昂まり
名声を誓おう

ラザロとマルタ
驚くままに
イエス キリストは
遠ざかり
失われる
恐ろしさに
おののきて
魂は
持ち運ばれる
震えあがり
風は吹き
激しい波に
舟はざわめき
慌てふためく

ラザロとマルタ
驚くままに
イエス キリストは
遠ざかり
失われる
恐ろしさに
おののきて
魂は
持ち運ばれる
震えあがり
風は吹き
激しい波に
舟はざわめく
慌てふためく
驚かされるまま
キリスト曰く
この騒ぎから逃れよ
落つきなさい
わたしに頼りなさい
この甘やかな声に
恐ろしさは

なだめられるまま

ラザロ兄弟の

驚いた目に

イエス キリストが

去りゆき

行方知らず

水の上で

ラザロの目が開かれた

突然に

魂の恐怖

襲いかかりて

驚きて悩み

勢いを増す風に

激しき波

押し寄せて

悩みぬき

舟を揺らして

ただひたすらに

ラザロの

帰還を

待つのみ

怯えあり

悲鳴響きて

イエス曰く

努力を捨てよ

安心せよ

あなたの苦しみを

打ち明けなさい

町いたるところ

崇高なる秘儀に

聖なる教訓

蒔きて

悪人を罰し

善人に希望を

美德には名誉

犯罪には恥を

聞くこと
尋ねること
深遠なる教義を
味わいながら
穏やかに
キリストに逢いたくて
熱烈に
願うのみ

真実ありて
戒律を学び
道を歩みゆく
ラザロは
困惑のうちに
悔い改めて
キリストを
賞讃し
信じ
慕い
愛し
仕える
黙するまま
ラザロは
耳を傾ける

キリストに勝る
愛はなく
憎しみはなく
この軽蔑の世界に
イエス キリストよ
膝をつきて

マグダレナの
長き髪に
こころ残りて
キリストの
足元に
接吻し
嘆くままに
香油の壺を

開きて
華やかなかおりに満ちて
キリストの足元を
涙と香油でぬぐい
聖なる愛で
キリストを讃えよ

唯一の
愛のみ
歩みを導きて
太陽の光は
落ちて
暗くなり
疲れはててベタニア荘に
身を休ませる

マグダレナの
聴くこと
敬愛すること
キリストを愛して
その燃えるような
愛に
焦がされるまま
ため息をつきて
地獄へと
おりてゆく

キリストの愛
愛によって
この自由
愛の恩恵を
得るかな
あまたの人々へ

完

2025 年 6 月 5 日 フランス アンジェ 祈
「おどろきて
かなしみありて

慟哭の

この みちゆきに

いのち はてけり

いのち また

いきとしいける

めぐりあう

うまれかわりて 2 (ふた) り」

17世紀叙事詩と聖女マグダラのマリア信仰 「マグダラのマリアまたは恵みの勝利 Marie Madeleine ou le triomphe de la grâce」(1669)の著作を通して

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
